ヒョウタンツギタイムス

手塚治虫ファンクラブ*京都



復刻 漫画教室② 第9回〜第14回 大自然と空想 びいこのおもり

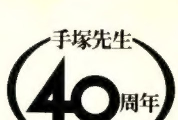
No.21

No-800



▲カット　大津市　前田昭仁

もくじ ヒョウタンツギタイムス㉑



『ロック冒険記』小論

近藤　和行

最初に、この小論は「日本戦後漫画の変遷」Ｉ、「映画への傾向と分離そして逆襲」に附属する、いわば外論であることを記しておく。

この小論では、コマの文脈・記号の読みとりは行なわない。もしこれを行なえば、扱かった作品以上の長さになるし、紙の上に描かれた漫画の文節は、誰でもある程度（少なくとも映画よりは、はるかに）読みとれると思うからである。

＊参考資料
「手塚治虫の奇妙な世界」　石上三登志著　奇想天外社
「手塚治虫作品リスト」　森　晴路製作　青林堂
文中敬称略

―――――　＊　―――――　＊　―――――

「ロック冒険記」は、昭和27年７月号より、29年４月号まで、『少年クラブ』に連載された漫画である。(なお、当時連載された原本が無いので、本論に扱うものは、後に単行本化されたものとする。)

当時の手塚治虫は、初期ＳＦ三部作[※1]を、とうに描き終え、手塚スタイルは固まっていたようだ。「ジャングル大帝」・「鉄腕アトム」の連載に並行していて、地味なイメージを免れないが極めて完成度の高い、しかも映画的な作品である。

さて分析を始める前に、もう一つ述べねばならぬことがある。それは手塚治虫の「スターシステム」である。彼が映画から受けた影響は、映像面だけではない。作品のキャスティング方式をハリウッドに習ったのである。彼は大勢のキャラクターを用意していて、しかも「彼等」には基盤の性格・気質を持たせていた。独自の性格を持った「彼等」が、さまざまな作品のキャストに起用されるのであるから、彼等には「演技」が、要求される。もともと手塚が記したにすぎない「記号」である彼等は手塚という監督の演出のもとに（または離れて）「俳優」に昇格するのである。

「記号」が人格化される過程に漫画独特のさまざまな効果があるのだが、これは別のところで論じることにする。

さて「ロック冒険記」だが、この作品の主人公ロック＝ディモン（父がディモン博士であることからの推定）を「演じる」のは、ロック＝ホームという「俳優」である。これはジョン＝ウェインの「ジョン幌馬車隊」という映画が作られるようなものである。つまりロック＝ホームは、このころすでに、手塚キャラクターの中で看板スターの一人だったのである。

手塚漫画はえてして作品は違っていても、キャラクター本来の名前で出ていることが多い。もっとも、「ブラック・ジャック」[※2]あたりから、名前を変えることの方が多くなったようで、それがますます「記号」へ「演技」を要求し、「俳優」化をすすめている。

横道にそれたが、このロック＝ホームという「俳優」の本来の性格・気質を述べておく必要がある。当時の手塚には主人公級に、〝敷島健一〟という大看板を持っていて、長編ものの少年主人公には、多く起用されてきた。



▲バタくさいロック


▲熱血少年ケンーくん

このケン一君はいかにも熱血日本少年で、翳の部分が見えない（または匂わせない）「俳優」であった。比べてロックは、いかにもバタくさいアメリカの匂いのする少年で、それゆえ無意識のうちに当時の日本人のコンプレックスを刺激し、それを敏感に感じた（あるいは無意識に嗅ぎとった）手塚によって、〝ふてくされた〟大袈裟に言えば、〝アナーキー〟で〝忌むべき存在〟になっていったのである。

しかし表面は、アメリカのケン一君的少年として演じることが多く、その内部は「来るべき世界」などで、露呈することがあっただけだったが、極めて複雑な心理構造は「俳優」として、なかなか魅力的だったのである。（なおロックの精神形成については、石上三登志氏の著書「手塚治虫の奇妙な世界」・奇想天外社 に的確に推理分析されてある。）

「ロック冒険記」における主人公の性格は、実は敷島健一的性格なのだが、これがなぜ「ケン一冒険記」とならなかったのか、それには極めて重要な理由があったのである。それはラストにおける「主人公の惨殺」である。これはかつてのテレビドラマ「悪魔のようなあいつ」の中での沢田研二他主要人物皆殺し以上に意味がある。これは昭和23年当時のしかも少年漫画の中でおこなわれたことだからだ。今でこそ正義を代弁する主人公が、死んでしまうという、いわばカタストロフィーを秘めた漫画は珍らしくないが、当時の少年漫画では特に少年読者にとっては、ショッキングで大変画期的なことだったのである。これが主人公がロックである理由の大きなものである。「健康的」なケン一君には死は似合わないのである。（キャスト理由は他にも考えられるのだが、それは後の作品の特長のところで述べることにする。）



▲当時少年漫画では珍らしかった主人公の死

作品の「構成」について述べよう。この作品は月刊誌に連載されていたということで、みずから制約を受けている。タイトルの出る前の部分は別にして、23の章から成っていて、その数が連載回数とあうので、おそらくその章ごとに「つづく」となっていたのだろう。（ただ手塚は単行本化の際に、よく描き直し、場合によっては再構成さえするので、はっきりしたことはわからない。）

しかし、そういった制約を受けながら、全体は手塚長編定跡の起承転結、即ち、ハデでセンセーショナルなプロローグ、次にたんたんとした人物紹介、こうしている間にも伏線をはりめぐらし、小エピソードを繰り返す。中盤の盛り上がり、後半の展開と続き、クライマックスへと突走り、感傷的なエピローグで終わるという構成を保っている。特にこうした大きな流れの起承転結が、さらに幾つもの起承転結へと分かれ、またそれもどんどん小さく起承転結に分割できるのには、まるでエイゼンステインの手法を思い出させる。これは手塚が四コマを土台にして長編を描いていることから来るのだが、もともと映画の絵コンテとかなり類似した性質を持つ漫画のそれから考えて、さほど不思議なことではないのかもしれない。

次に「視点」、つまり映画でいうカメラアングル。ポジションを見てみると、最初のセンセーショナルな天変地異の場面は大ロングで描かれ、その様子は細かに描写されている。また同じく大ロングで、手塚独特の群衆（モブ）シーンがある。このシーンは映画においてはワンショットでは不可能で、若干俯瞰で人々を描きながら、それぞれ個々の様子が克明に描かれているのである。このパノラマ的大画面には映画の手法に漫画としての可能性が僕には見える。またつなぎの場面にも、アングルやショットを変え（広角レンズを通して見たような効果があるコマもある）、小エピソードの文節をわかりやすく見せている。そこにはテンポのいいリズムがあり、フキダシと絵を同時にみせる力を持っている。もっとも世代の上の人がマンガを読むときには、まず字を読んでからそれから絵を見るという見方しかできないそうで、子供のマンガを読む時間より、はるかに遅いそうである。これは漫画の発達と共に、ある「約束事」（別にこの場合だけのことではない）を読者に学習させているよう

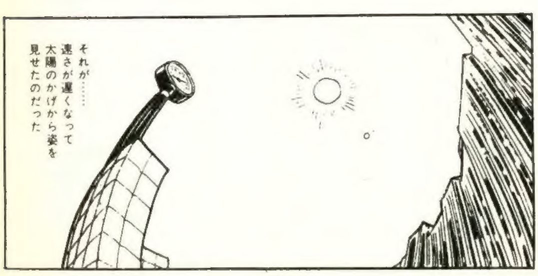
でその"決まり"を習っていない人達には、味わえないことが漫画にはあるようだ。



▲セリフの楽しいモブシーン



▲大ロングの天変地異



▲広角アングル

またこれは後ほど、別のところで述べることになるが、この作品の中で手塚は「一人称画面」という手法をためしている。

映画の創世紀、例えば「透明人間」「月世界旅行」をみてもわかるとおり、初期、映画は現実には起こり得ないことを起こすトリック的な映画が多かった。ゆえに手塚治虫も、その初期に、漫画でしか描けない世界つまりＳＦを多く描いたのも頷けるのである。この作品つまり「ロック冒険記」も例外ではない。設定からして、惑星ディモンの大接近、それによる地球の天変地異、ディモン星の異植物、石油海、粘土人、鳥人、地球人の恐るべき伝染病など、かなり子供心をワクワクさせる（大人心だって…）道具立てがいっぱいなのである。これが的確な「視点」で「構成」に組みこまれる、これはこの作品の魅力の一つになっていることはまちがいない。

この作品に限ったことではないが、手塚の長編で特長的なのは人間関係の複雑さである。血縁関係・憎悪関係・旧友関係・並行関係などなど、非常にめまぐるしく絡みあう。

場面転換では、それぞれ違う場所で違うドラマが展開しており、スケールと時間を感じさせてくれる。また戯画化されてはいるが、それぞれ登場人物の性格の色彩も豊かである。正義漢あり悪漢あり、(ただ手塚の場合は、単純な善悪はない)笑わせ役あり、泣かせ役あり、それぞれの性格を見事に描き分け、ぶつけあい、絡ませている。これには前述の「スターシステム」が大きく貢献していると思う。

戦後漫画を視覚面(コマ割・アングルなど)で発達させただけではなく作中人物の人間ドラマの点、引いては作品構成の面で、格段に高度なものにした手塚治虫は、このような所でも覗いているのである。

漫画は映画とは違って静止しているし、何度も読み返せるため、文脈・文節、またそれぞれの記号としての画面が読みとりやすい。しかしそういった読みとりやすさが、逆に漫画の持つ意味を浅くしているところが、手塚以前の漫画には多々あった。(これはストーリーの「幅」をいっているのであって、美術面や他の芸術面では誉れていたのかもしれない。)

手塚治虫はそういったカラを打ち破り、戦後爆発的に売れたかの「新宝島」[※3]を口火に、前に述べた映画的手法を駆使して漫画の新しい可能性を切り開き、ストーリー漫画の底を拡張していったのである。

最後にいささか部分的になるかもしれないが、この作品のいくつかの特長を取り上げてみたいと思う。

①紅花の不在

女性の登場人物がいない。正確にいうと、鳥人(エプーム)の〝チコ〟の母親役が、登場しているが、重要な役割は果たしていない。この〝女性の欠如〟が、この作品を手塚マンガの中でメジャーな部分に押し上げなかった一つの原因かもしれない。

しかしエロティシズムの点では、〝女性の欠如〟を補なって余りある。だいたい手塚の異生物（ヒューマノイド・ロボットも入る）の、エロティシズムは、かなり多くの人が述べていて、この作品においてもこれは例外ではない。形を持たない粘土人間ルボルームも両性的で大変なまめかしいし何より鳥人つまりエプームも女性を潜在的に時に露骨に感じさせるのである。

②地味な悪役・ワキ役

〝女性の欠如〟の他にも、主人公以外の人物がヒゲオヤジ、オイル卿を除いて、当時の手塚キャラクターの中でも大変地味な、しかも無名の「俳優」を起用したということがある。しかし有名な花形?悪役のアセチレン＝ランプやハムエッグを使わなかったのには、意図が感じられる。これはロックの主人公起用にも無関係ではない。一つは作品にリアリティを持たせるためである。(初めてテレビドラマに出演して、誘拐殺人犯を演じた泉谷しげる氏のリアリティを思い出して欲しい。)もう一つは、作品のイデオロギーである。それまでにも手塚は大変インターナショナルな、言い換えれば色々な国の人が登場、絡みあう作品を創ってきたが、やはり日本びいきの作品が多かったのである。

この作品では、人種や国家を公平に平等にみるために、あえて日本人を大悪役に据えたのである。この日本人〝東南西北〟のイメージは、外国人がイメージする日本人像とかなり類似していて、現在東南アジアあたりで嫌われている日本商社＋日本観光客のことを考えると、手塚もずい分先見の明



▲稀代の悪役、東南西北

があったことがわかるのである。ともあれ、このジャップと対決するのが、ケンーではなくバタくさいロックであるのは、決して不思議ではないはずである。

③コマの角が90°であること(95%以上)

つまり、皆長方形の画面内に入っているということである。マンガのコマ割りというのは、戦前は「のらくろ」にみられるように、横に長い長方形のコマが主流で、そこを右、左から一定の大きさのキャラクターが移動するという画面が多かったのだが、戦後手塚以後はこれに前後のスケールを持たせ、コマ内のレイアウトを工夫することで、映画におけるスクリーンとカメラワークの関係を会得したものが多くなってきた。そのような訳でこの90°矩形画面はスクリーンをかなり意識させるものだったのである。(この後、特に少女漫画に多かったが、ページ内のレイアウトの工夫で、コマも不定形使用が多くなり、時にはコマを抜いたりコマを閉じなかったりして、漫画独特の方法が発達した。しかし最近ではまた、あるいはより的確に、映画のスクリーンを感じさせる大友克洋著の「童夢」[※4]のような作品も出てきた。これは絵自体が、かなりリアリティのある絵なので、歴史は繰り返すとはいえ、らせん上に、より高いものとなって、繰り返しているようである。)

④一人称画面の実験

「一人称画面」とは映画でいえば、主観のあるカメラのことで、つまり視ている人自身は身体の一部(手など)をのぞいてみえないという画面である。そのため、この視ている人(以後「視覚者」と呼ぶ)は登場人物でありながら画面には登場しない。ただ、自分が視ているものだけが画面となり、「視覚者」の存在を感じさせるのである。





◀『化石島』の"一人称画面"



▲▶『ロック冒険記』の"一人称画面"

手塚治虫は「化石島」※5 で初めてこの手法を使っていたが、「ロック冒険記」では、より洗練されて使われている。

この作品では、ロックが恨み固まる東南西北と活劇の末、拉致し、突然「視覚者」となるのだが、そうなった途端に画面に緊迫感がみなぎって、リアリティが増している。映画ではよく正体不明の殺人鬼がこの「視覚者」となって大変サスペンスフルな画面を築いているが、この作品でも、そのような効果はある。

特出すべきは、「視覚者」であるロック自身の声をコマのワク外に出しているという点である。これで「視覚者」自身をマンガ世界から分離させて、読者自身に近づけるという効果がある。この手法は漫画では、その後使う人はあまりいないようだが、大事なのは、この実験が、コマ・ワクの持つ意味と効果を拡げたということである。

このような手塚の実験からも漫画の持つ可能性があらゆる方向に延びるものだということがわかるのである。

※1　昭和23年「ロストワールド」、昭和24年「メトロポリス（大都会）」、昭和26年「来るべき世界」。単行本作品。
　みな、大長編で、人類に警告を発している。特にロストワールドは戦前から描かれていたもので、その斬新さには舌を巻いても巻ききれない。

※2　手塚治虫漫画家生活30周年記念作品。
　今までの作品のキャラクターをゲストに迎えて描かれた短編読切一話完結の作品。テレビドラマ的でもある。蛇足だが、テレビではなんとあの加山雄三が主演して、原作の良さを粉みじんにしてくれた。

※3　昭和22年に発行されるやいなや、40万部売りつくしたという幻の作品。映画的手法が盛り込まれ、現在の漫画は全てこの作品の上に建ったといっても過言ではない。

※4　「童夢」。大友克洋著、双葉社発行。

※5　昭和26年の単行本作品。あらゆる意味での実験的作品で、全体はオムニバスとして構成されている。前衛的でありながら、娯楽作品となっている。

❖編集部より❖

この〈『ロック冒険記』小論〉は、ＦＣ京都会員の近藤和行さんが大学在学時に進級用に書かれた論文です。前文にありますようにこの文は、「日本戦後漫画の変遷」Ⅰに附属する外論だそうです。つまりは枝葉の部分であります。枝葉でこれだけの力作であることからおしはかり、本論の方はきっと素晴らしいものだと思います。読者の方、読んでみたいと思いませんか？　御意見、御感想をお待ちしています。

蛇足ではありますが、近藤氏の論が、単行本化された『ロック冒険記』を定本として論を進めておられるのに老婆心から一言。「少年クラブ」連載当時の『ロック…』では、主人公のロックは死んでおりません。あまつさえ、東南西北も死なず、警察につかまり、ニューヨークの監獄で一生を過ごしたことになっています。エンディングももちろん変わっており、月と太陽の引力の相互作用でディモンがコースを変え、地球からはなれていくという終わり方です。

手塚先生自身は主人公を死なせて（つまり今の終わり方）連載を終了したかったようで、恐らく、「少年クラブ」の編集サイドの要望（当時の少年漫画界では主人公が死んでしまうなどということは非常にショッキングなことで編集サイドがビビうたのでしょう）で、ラストをはしょってしまったようです。そして、単行本化（鈴木出版刊・昭和30年２月１日～昭和31年10月１日）の際に"鳥人の反乱" あたりからラストまでを大幅に描き足しています。



▲連載時の東南西北の末路



◀連載時のエンディング

実験アニメ『ジャンピング』がグランプリ受賞!!

もう、このタイムス21号がお手元に届くころには、ほとんどの人がご存知だと思いますが、昭和56年の秋から製作に入っていた、手塚治虫氏の実験アニメーション『ジャンピング』が、ユーゴスラビアのザグレブで開かれた、第6回ザグレブ国際アニメーション・フェスティバルでグランプリおよびユネスコ賞の2つをとりました。

ザグレブのアニメ祭は、フランスのアヌシー映画祭と並んで、非常に権威のある国際的なアニメフェスティバルです。ザグレブには、前記の賞のほかに3つ、合計5つの賞があり、今回は『ジャンピング』がそのうちの2つをさらってしまうという、大変おめでたいことになりました。

国内ではまだ、5月に仙台で上映されただけで(手塚ＦＣ山形が7月29日に上映予定である)、ほとんどの人がまだ未見であろうと思いますが、このグランプリ受賞を契機に、各地の上映会などで、観ることができればうれしいことですね。

何はともあれ、今年は手塚先生の漫画家生活40周年の年ですが、3月に小学館の漫画賞を『陽だまりの樹』で受賞され、6月にこの『ジャンピング』受賞です。先生にとって、今年は本当に素晴らしい年になりそうです。手塚先生、ならびにスタッフのみなさん、おめでとうございました。

『ジャンピング』について

主人公がスキップをして歩くうちに、次第に高くジャンプをはじめ、町や海を飛びこし、止まらぬままに戦場にまぎれこんで、核爆発のキノコ雲の中にとびこんでしまう。そこで悪夢が醒める。この寓意を少年か少女の行動の暴走とみるか、あるいは気付かぬままに核戦争にまきこまれる市民のパロディか、消滅へむかってつっ走る人類のカリカチュアと思うかは自由である。

手塚治虫

『ジャンピング』製作ノート

■1981年

9月18日㈮　初の打ちあわせ。手塚先生より4～5分の背景動画の実験アニメーションということを聞く。コンテ約$\frac{1}{3}$できていた。

10月2日㈮　設定を見てもらう。

10月12日㈪　『ジャンプ』作画in。

■1982年

4月28日㈬　『ジャンプ』より『ジャンピング』と改題。原画は試行錯誤の連続ながら、かなり進む。

8月7日㈯　8ミリで原画タイミングテスト撮影。中旬にこのフィルムが、NHK「YOU」の中で放映される。

9月1日㈬　29枚絵コンテ出る。コンテ$\frac{2}{3}$完成。

10月28日㈭　動画150枚UP。

12月13日㈪　8ミリ第2次タイミングテスト。

■1983年

1月中旬から　野間、加納、ジャンピング班に動画で参加。約半年間。

1月14日㈮　705枚動画UP。

3月8日㈫　水彩でのためし塗り。撮影テストの結果、あまり効果的にならず、セル仕上げいくことになる。

3月15日㈫　ACCプロで16ミリ撮影。

3月26日㈯　絵コンテ最終分出る。

7月後半まで、タイミングの悪いところの修正作業。

11月8日㈫　ラストまで、作画完了。

11月14～16日　アニメーションテスト(8ミリ)。

11月22日㈫　動きほぼOKとなるが、これからまたコマ抜きや、つけ加えが出る。

■1984年

1月25日㈬　再々修正のアニメーションテスト。

2月1日㈬　16ミリテスト用撮影シートづくり。

2月17日㈮　ACCスタジオテスト撮影。

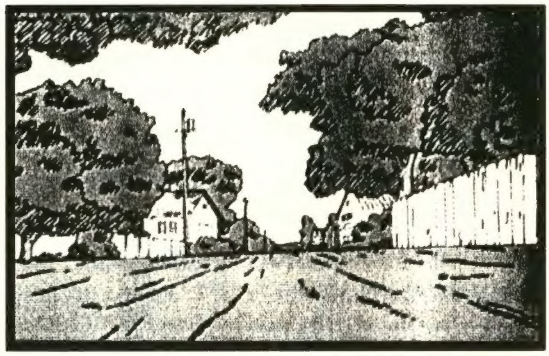
2月21日㈫　先生とシート調整。作画追加の打ちあわせ。連日、深夜までがんばる。

2月24日(金)	初の仕上げ出し。
3月9日(金)	急に追加演出あり。新作作画250枚くらいある。
3月11日(日)	空の背景PAN目盛り付け作業。845枚動画を抜く。
3月14日(水)	作画完了。
3月20日頃	仕上UP。
3月21日(水)	撮影UP。
3月24日(土)	ダビング→東北新社。夜、35ミリ初号完成。東京現像所で試写。そのままザグレブに送る。
3月26日(月)	社内16ミリ版試写。
6月16日(土)	**ザグレブフェスティバルでグランプリ受賞。同ユネスコ賞受賞。**

『ジャンピング』データ

●**製作**/(株)手塚プロダクション●35ミリ・カラーハンドアニメーション、オプチカル処理付き●**上映時間**/6分13秒●**原案・構成・演出**/手塚治虫●**アニメーション**/小林準治●**音響**/倉橋静男●**制作**/松谷孝征●**制作補**/久保田稔●**動画協力**/加納薫・のまとし●**撮影**/ACCプロダクション●**動画枚数**/3,959枚●昭和59年3月完成

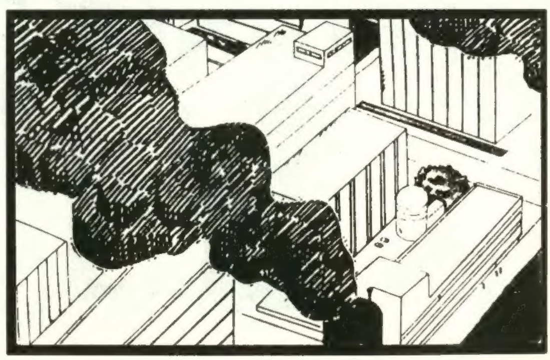












地元〔京都〕のアニメスタジオを紹介します

国鉄奈良線の「木幡」駅のまん前に「京都アニメスタジオ」があります。仕事中に大変おじゃまとは思ったのですがスタジオ訪問してまいりました。そもそもこの京都アニメとＦＣ京都がどうして知りあったかといいますと、ある即売会(同人誌やセルなどの）でウチの会長の石川氏が出店していたのですが、その即売会のファン層とは大変な意識の隔たり（もちろん年齢ですよ）があったとかで、石川氏、所在なげにボーッとしてあたりを見回していたところ、隣りで同じようにボーッとしていた八田英明氏（京都アニメの代表の方です）と目が合ったのだそうです。で、お茶でも飲みましょうか…ということになり、話をしていたところ、八田氏の奥さんが「火の鳥2772」の監督をなさった杉山卓氏の妹さんということで、ああ、それならまんざらつながりがないわけじゃない、などということで仲良くなったという次第。

スタジオは、仕上(トレスとか彩色などです)を中心に仕事を進めていて、現在放映中の「スターザンＳ」や「巨神ゴーグ」などの仕上をしているそうです。１階で彩色を、２階でトレスマシンで作業をしておられました。アニメ制作の中心はやはり東京なので、京都にいては、連絡、打ち合わせなどに不便な点があるのでは…と思ったのですが、八田氏によると、かえって離れている方が、せかされるなどのノイズがなくて落ち着いて仕事ができるとのこと。残念ながら、一般アニメファンの見学は受けつけないとのこと。外注さんの養成などもやっているそうです。



▲京都アニメ代表の八田氏とＦＣ京都の石川氏(スタジオ前で)

今をときめく日本サンライズも、もとはといえば小さなスタジオから始まったので、八田氏もゆくゆくはスタジオを大きくして、自主製作も夢みておられるそうです。

以下の文章は、代表の八田氏によるスタジオ紹介です。

スタッフ８名、外注さん40名で、アニメーションの仕上げを中心に、タツノコプロダクション、日本サンライズ他各社の仕事をしています。京都と東京の隔たりはないとはいえませんが、ジックリと取り組める点など立地条件を十分に生かして活動中です。

東京のある試写会で手塚先生をお見受けしたことがあるというアニメーターで制作の富山、手塚プロを訪問したことがある竹内、検査の井延、今春、高校を卒業して張りきっている和田、岡村、なんでも屋の辛島他個性ある面々がファイトいっぱい取り組んでいます。

●京都アニメスタジオ
〠612 京都市伏見区桃山町大島38-2 8-104
代表　八田英明

手塚治虫漫画家生活40周年記念特集

パートI

手塚先生40周年おめでとう!!



●カットは読売国際漫画大賞作品募集チラシより
吹き出し中のカットは堺市の山中弘之さん

手塚先生への恋文

先生お元気ですか。
漫画家生活40周年
おめでとうございます。
今さらボクが賞賛するまで
ありませんが、先生はほんと
すごいお方です。
素敵な方です。
ぞっこん惚れてます。
ああ〜、
先生が20代の
時に
出会いたかった！



恋愛関係への可能性が断ち切られた今、ぼくに残された道はマンガを頑張ってアシスト時代のデキの悪さを償うことしかありません。クールだわ。ステキ。

先生、いつまでもぼくたちのすばらしい師匠でいてくださいね。一層の声援を送ります。石坂啓。

石坂　啓（漫画家）

思えば昔、
幼稚園の時に先生の作品にガーンときて、私の中に〝マンガ〟の世界が入りこみ―――。
小学生の時に椿山荘で先生にサインしていただいたあのホンの数分間で、先生は私に〝信頼できる大人もいる〟のだというコトを教えてくださり、もう決定的にマンガの道へのめりこむキッカケをくださいました。
手塚先生が読んでひっくりかえって思わず「並んで写真を撮りましょう！」といってくださるようなオモシローイマンガが描きたい!!



伊東愛子(漫画家)

手塚先生、
いつまでもお元気で、
ご活躍を楽しみにしています。



大山和栄(漫画家)



まだアニメの技術がお粗末だった昭和35年頃だっただろうか、テレビ映画で「鉄腕アトム」というのがあった。今でいう肥満児少年が、まわらぬ舌で重たい衣裳をつけて、ドタドタと走っていたのが、今でも忘れられない。あまりにも「鉄腕アトム」の漫画と違うからなのだろう。こんなに鮮明に覚えているということは…………。どんなタイプの悪人が出てきても、どこか憎めない。人間が本来もっている優しさを感じるのが手塚作品の特徴だと思いながら今日まで愛読を続けている。ただ「MW」とか「どろろ」の終り方が中途半端な気がして、今でも心の片隅にひっかかりがあります。しかし只今ビッグコミック連載中の「陽だまりの樹」は、実に面白く、事実と多分虚構もあるのでしょう、うまくミックスされていて、講談を創作する時の参考になります。近頃の漫画家の中にはストーリーにオリジナリティがなく、ただ講談や人情噺からストーリーをひっぱってくる人もいる。I氏はその典型であるが、「陽だまりの樹」にはそれがなく毎回楽しく見ております。手塚先生、今後とも人間味あふるる作品をよろしくお願いします。

旭堂小南陵（講談師）

手塚先生、

漫画家生活40周年

おめでとうございます。



小山ゆう（漫画家）

マンガ家生活40周年おめでとうございます……この書き出しで始まるコメントは多いでしょうね。芸がなくて恥かしい。本当は40年間、私たち数多くの手塚ファン、漫画ファンに楽しい夢を見せていただいて、ありがとうと言いたいんです。単なる夢で終わることなく、仕事に取り込まれていった人や、精神の中に生かしていった人も多いハズですから……。もちろん私もその中の一人です。

最近、大人向け作品が多いように感じられますが、少年向けの冒険活劇もどんどん発表していただきたいです。———ああ、ダメです。コメントになっていませんね。ファンに書かせると、想いが先走ってロクな文章が書けません。ああしてくれ、こうしてくれなどとムリな事ばかりいいそうで……。本当はいつまでもお元気ですばらしい作品を生み出していただければいいのです。

これからも末永く、私たちを楽しませてください。



たかはしちこ（漫画家）



・手塚先生の影響を受けてマンガ家を目指したという作家は多いと思うけど……自分はちがうなあと思ってた。第一マンガ家になりたくてなったわけでもないし、マンガ自体、小さい頃からほとんど読んだことがなかったから。

じゃ、なんで今ぼくはこんな商売をやってるんだろう？と、ぽかんと口を開けて考えてみると……そうだ、サラリーマンになるのがいやで、医者にでもなろうかと思ってたっけ……。だけど医者もサラリーマンもたいして違わないやとわかって美大に入ったな……、そこでマージャンばかりやって、いったいぼくは何がやりたいんだろう……と、その時友人の本棚の中に新ピンの参考書や辞書にまじって、一冊だけウス汚れた本があるのを見つけ……思わず手にとったっけ……。あれあれ！そおかあ、なんてこった‼ぼくが今マンガを描いてるのはこいつのせいじゃないかあ。その本の背表紙には「火の鳥・復活編」とかかれていた。

寺沢武一（漫画家）

誠実な人。

手塚治虫先生ほど誠実な人をぼくは知らない。自分に対しても、他の人に対しても、人間誠実なふりすることは簡単である。が真に誠実な人はめったに居ない。

人が大人になって行くという事は、純粋な誠実さをガマンと引き換えに捨てて行く作業だとぼくは思う。



50才を過ぎてなお赤子のままの純粋な心と誠実さ、人間的に高い知性は、もう宇宙人をさえ彷彿とさせる。本当に別の星から飛来したのかも知れない。

世界中の政治家とか官僚と呼ばれる人々は、今から30年前に描かれた先生の作品の何篇かで良いから読んで見ると良い。これからの問題が美事に描かれて有って、きっと勉強になるはずである。

永島慎二(漫画家)

手塚治虫先生がマンガ家になっての40周年記念の年だそうである。一口に40と言ってもそれは、生まれた赤ン坊が成人して結婚し、その子供がまた成人する長さである。世の中も変わる。人も文化も流動する。その中で40年も創作の世界に足場をかまえていられるということは、どんな意志・理念があってできることかと感動する。

私は手塚治虫のマンガにのぼせてマンガ家になった。この仕事には仕事なりの迷いも壁もある。編集と。読者と。評論家と。マニアと。昔のファンと。今のファンと。前後、上下、左右から目まぐるしくいろいろと言われる。種々の意見も評価も多種多様でその多くの声に惑わされていると、ただでさえ不安定な足場しかない創作の道で、すぐに自分を見失なってしまう。特に先駆者である手塚先生に、アニメでもマンガでも、良し悪しはあれ風は強かっただろう。その中で40年、自分を見失なわずにこられたということに……やはり感動してしまう。

三ツ子の魂百まで、と言うが、人の人格の核は人生のごく初期に形成されてしまう。その中心核の周囲にあとは時間と経験がつみ重ねられてゆくだけである。どんな経験があっても、その処理は核を通して表現される。私が手塚治虫の作品がこよなく好きであるのは、どんな作品にも核を通過した痕跡が見えるからである。人間がうつしだされているからである。そして私はそもそも手塚治虫がもっている核の型(タイプ)が好きなのである。それはたえず、〝これでいいのだろうか?これでいいのだろうか?〟と、考え迷っている。手さぐりしながら歩を進めていく人間性に私は…三たび言わせてもらえば…深く深く感動するのである。

40周年記念、おめでとうございます。


●フラワーコミックスより

萩尾望都(漫画家)

漫画家生活40周年おめでとうございます。一口に40年と言っても実感が湧きませんが、私が生まれて現在に至る迄、そしてまだおつりがあるという年月、第一人者として活動されてきた事は驚きではないでしょうか。「手塚治虫」の名は、日本の漫画史上特筆されていくでしょう。又、アニメ分野では虫プロを作られ、「鉄腕アトム」を日本で初めてTVシリーズとしてだされ、そして数々の作品を手がけられて来た事など、先生の漫画とアニメに対する情熱はこの世界を支えてきました。私達は関西——京都でアニメーション制作の仕上げを中心に活動しております。今回、手塚先生の「40周年記念号」に、との連絡を代表の石川氏より受けてスタッフ一同驚いております。しかし手塚先生との接点は、私の配偶者(旧姓杉山陽子)が以前虫プロで「リボンの騎士」他の仕上げでお世話になった事が京都アニメのルーツですので全く御縁が無いということではありません。又私共京都でアニメに関わる者として先生を、身近な存在として(全く失礼ではありますが)とらえさせていただいております。今後、45周年、50周年と引き続いて記念号が創刊されてゆくでしょうが、先生の大いなる情熱にささやかでも寄与できますよう私共関西——京都で頑張りたいと思います。

八田英明(京都アニメスタジオ)

昭和20年、太平洋戦争が終りました。ぼくらは国民学校六年生。物心ついてから、ゆるぎないものと教えこまれてきた神国日本がコロッと引っくり返ったわけですから、子供心にもそれなりの大混乱がありました。その頃学校を通じて「毎日小学生新聞」を購読していたのです。ある日〝手塚治虫〟という聞きなれない作者による「マァちゃんの日記帳」という四コマまんがの連載が始まりました。丸っこい可愛い絵柄で、たちまち引きつけられたのを記憶しています。もちろん新聞連載ですから、後に手塚ブームの大きな要素となった奇抜な着想とか、斬新なプロット、映画的でダイナミックな技法等は一切見られません。でも今から思えば昭和22年の「新宝島」に始まる大手塚ワールドの展開を予感させる、これは序曲だったのです。

あれから40年。二人の元軍国少年達も、そろって50才。なお衰えを見せぬ先生の御活躍は、ぼくらにとって、たのもしく嬉しい限りであります。



●虫コミックスより

藤子不二雄(漫画家)

手塚治虫先生、漫画家生活40周年、お目出とうございます。
僕が手塚先生のアシスタントになったのは、昭和36年ですから
もう20数年前になります。
僕も自分なりにかなり長い間漫画を描いてきたつもりですが、
手塚先生とくらべると半分しかやってないのですね。
あらためて40年のすごさが思いおこされます。
ますます御健筆であることをお祈り致します。



古谷三敏(漫画家)

手塚先生、漫画家生活40周年おめでとうございます。先月(5月17日)首相官邸パーティーの席上で、久々に先生のお声を拝聴し、まだまだお若いので安心しました。その際、中国旅行中に風邪をひかれたとの事、初めて知りびっくりしました。どうかお身体にはくれぐれも気をつけてください。

漫画界のゴッドファーザーとして君臨すること40年。私達、駆け出し漫画家からみれば、気の遠くなるような歳月。でも、先生にしてみればまだやっと40年なのかもしれませんね。そう、きっと手塚先生には漫画という名の火の鳥が体内に宿っていて、これから何十年、何百年と永遠にかけつづけるのでは——いや、絶対そうあって欲しいと心底切望するのであります。先生のファンはファンのみにあらず。私達、若輩漫画家の素晴らしい指導者として、また、手塚先生の育てあげた今日の漫画界が非行に走らない為にも、是非かき続けてください。(特に少年誌で！)私も手塚ファミリー(勝手にこんな呼び方をしてすみません)の一員として、手塚先生の名に恥じぬよう頑張るつもりです。

お祝いの言葉のはずが、こんな嘆願文になってしまい申し訳ありませんでした。

最後になってしまいましたが、手塚先生の下での2年間のアシスタント修業は、今日の私にとっての最大の礎となっております。遅れ馳せながらこの誌面をおかりしてお礼申し上げます。ほんとうにありがとうございました。



●KCコミックスより

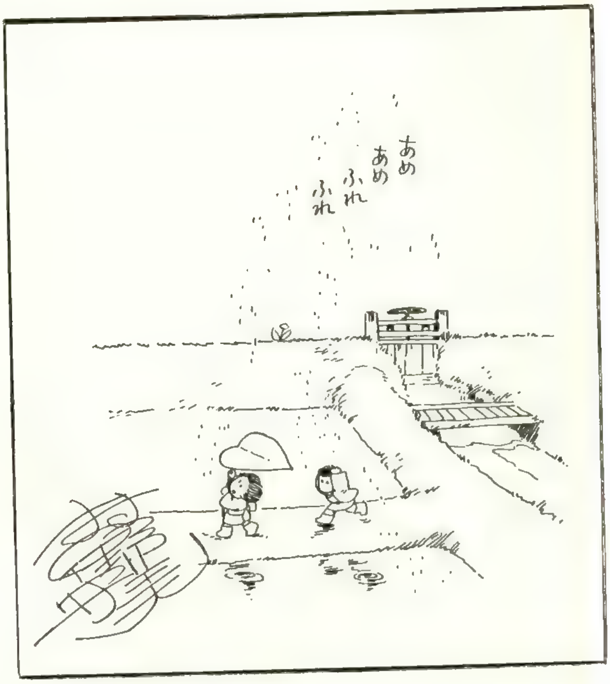
三浦みつる(漫画家)


ヨ……ヨンジューネーン
さすが先生おめでとうございます
くっくっく……(感激のなみだ)
先生の40年は私の40年でもありますこれからももっと
人の人生狂わせてください
狂った
忘れもしません初めて先生の作品に出会ったのが小学校一年生の時「新宝島」でした幼な心にもタダ、ただかっこよさに感激
新宝島
小学校三年生の時に見てしまったのが「漫画大学」これが私の人生狂わせた!
なる!ワタシもマンガ家になるのだ!
それからは手塚治虫(ジムシ)の名のつく本をあさりちらす年月が続き
親が死んでも泣かなかった私が「ジャングル大帝」の最終回を本屋で立読みしながらボロボロ泣いてしまったよです
この時にかぎって買うおこづかいがなかった
ジャングル大帝
漫画少年
その後 治虫(オサム)と読むことを知った
ファウスト
ふしぎ旅行記
メトロポリス
ロストワールド
その後先生の下宿に伺った時ショックだったのはりっぱな大机の前のミカン箱のいすでした
これが一番楽なんだよ
その せいかどうか わかりませんが 私は いまだに ミカン箱 コンプレックスで トキワ荘からの ミカン箱 2コを いまだに 書棚に 使っておりまする
初めて上京お会いしたのが31年春銀座の喫茶店アマンドでした
生きてる!本物だ!ナマだ!
銀座の灯がまぶしかった……

水野英子(漫画家)

漫画家40周年おめでとうございます

なんと偉大にして、広大なる軌跡でしょう。一作たりとも、おろそかにしない頑固にして柔軟な姿勢を貫かれ、それ故にこそ幾多の、主人公を生み、後輩を輩出し、たえず新しい分野へ恐れを持たずいどまれる、真に、先生の道程をこそ目のくらむ想いがいたします。ますますの御健筆を心より待つ者です。



村野守美（漫画家）



手塚先生、漫画家生活40周年と聞きました。誠におめでとうございます。何年の事か失念しましたが、僕が大学時分、京都でファンの集いがあるというのでお手伝いに参った事がありました。握手して頂こうと思って控室の前まで行きながら、恥かしくて、ただ遠くから先生を見ていただけでしたが、今では漫画家として末席に名を連ねるそれからの自分を不思議に思います。これからも僕達の前に登場するだろう数々の作品を楽しみにしています。

山田章博（漫画家）

手塚先生の漫画家40周年と聞いて「ほう、もうそんなになるのか」。といまさらながらその長い執筆活動に驚きを感じました。

考えて見れば、私も手塚漫画で少年時代を過ごした一人です。手塚先生の作品を最初見た時、その斬新さとストーリーの面白さに夢中になり読みあさったものでした。その斬新さは今でも失なわれず第一線で素晴らしい作品を描きつづけています。

この漫画に対する並々ならぬ情熱は後輩にとってはなによりの鏡です。これからもいつまでも円熟した作品を描き続け、読者を魅了しつづけ、また漫画家のリーダーとして、後輩の良き指導者として、いつまでも活躍していただきたいと思っています。



横山光輝（漫画家）

●虫コミックス・カバー裏より

小生は漫画の専門家でもなく、一介の外国人読者にすぎないが、小生の一番好きな漫画家についての印象を紹介させていただきたい。作品についてではなく、手塚治虫という人についての印象。というのも、作品を通してその奥に読者が見い出そうとしているのは、その作者自身だから。

関西日仏学館の授業で彼の漫画を訳しているという事情もあって、小生が漫画と関わり始めたのは、主に語学上の理由による。従って小生の視点は限られたものではあるが、それでも彼の漫画を読んでいて、「これは、すごい人だ」と感じることはできた。手塚漫画を読み始めたのは偶然だったが、最初から、彼は小生の心を捕えて放さなかった。12年前のことである。次に読み進むうち、小生の目の前に広がってきたのは、遠大で豊かで多様な世界だった。特に小生が面白いと思うのはハードな面、つまり大人向けの社会面を扱ったものである。この想像力の豊かさ、この好気心、そして、このユーモアのセンス！これは生字引とも言える、機知に富んだ人に違いない、と感心したものだ。

彼の漫画を読む楽しみに加えて、小生は、大変な光栄を得ることができた。漫画の主人公達の生みの親を直に知ることができたのだ。フランスのアングレームでの漫画フェスティバルで、彼と共にした三日間を小生は生涯忘れることはできない。彼は小生が想像していたとおりの人物だった。温かさ、ありとあらゆる物に向けられる好気心、並外れた、しかも絶えることのないエネルギー(″火の鳥2772″の上映の度に、彼はちゃんとそこにやってきて、注意深く、映画と視聴者に目を向けていたし、又、一日中様々な人に会ったり、インタビューを受けた後、夜中に絵を描くということもあった)、ユーモアのセンス、そして、言葉の壁を忘れさせる人の良さ。映画や文学、フランスの漫画などに関する限りない知識には、小生もほんとうに驚いた。しかも、少しも気取らない、気軽な人柄。それこそが彼を日本の第一人者としている所以であろう。このような彼の作品は、フランスにおいてもその価値を知ってもらいたいし、地球的規模で評価されるべきだと思う。それが手塚漫画にかける小生の望みである。

ラローズ・ジャーク（京都大学講師）

色紙プレゼント

手塚先生の40周年を記念して、今回コメントを寄せていただいた作家諸氏から色紙を頂戴いたしました。ありがとうございました。
そこで、この色紙をタイムス読者にプレゼントすることになりました。(29名様)

《応募方法》

このページ下部にある応募券を官製ハガキの裏に貼り、欲しい色紙の作家名(1名のみ)、住所、氏名、年令、FC京都会員の方は会員番号も明記して、右記住所までお送りください。〆切は、9月14日(当日消印有効)。なお、応募券の貼っていないハガキは無効とさせていただきますのでご了承ください。応募券のコピーは認めません。当選発表は発送をもってかえさせていただきます。

《あて先》

〒606 京都市左京区一乗寺里ノ前町24　石川方
手塚治虫ファンクラブ京都・色紙プレゼント係



●石坂　啓(彩色)2名



●石森章太郎(彩色)1名



●伊東愛子(彩色)2名



●大山和栄・2名



●木川かえる・1名



●旭堂小南陵・2名



●小山ゆう(彩色)2名

色紙プレゼント
応募券
タイムス21



●さいとうたかを(彩色) 2名



●たかはしちこ(彩色) 2名



●寺沢武一・2名



●永島慎二(彩色) 2名



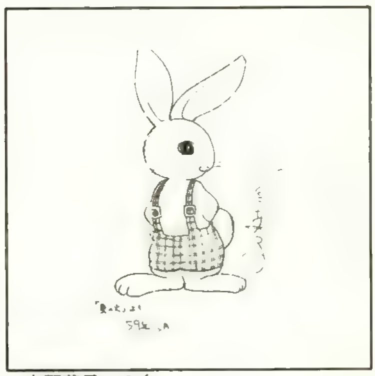
●藤子不二雄・1名



●古谷三敏・2名



●御厨さと美(彩色) 1名



●水野英子・2名



●村野守美・1名



●山田章博(彩色) 2名

すくらっぷ・るーむ



手塚治虫 探偵クイズ

フジペット・カメラが千台あたる創刊記念特別大懸賞

第3回

問題

ある朝、有名な銀行家が、へやの中で、賊にうたれて死んでいるのが発見された。何時ごろうたれたかわかりません。ところが、夜中の一時ごろ、庭を歩いていた警備員が、まどから明りがもれていたのを、ぐうぜんカメラにとっておいたのです。写真には、へやの大きなかがみがうつっていて、そこに銀行家の後すがたが見えます。「一時というのは、たしかかね?」と、刑事がききました。「たしかです。」警備員が答えました。

すると、スピード探偵が、さけびました。

「でも、その時には、銀行家は死んでいて、賊が銀行家のふりをしてすわっていたとは考えられませんか?　一時には、もう、銀行家は死んでいたと、ぼくは思います。」スピード探偵は、なぜこういったのでしょうか。そのわけを考えてください。はねペンに注意して。

投書のきまり

諸君わかりましたか。答のわかった人は、探偵クイズ、スポーツ・クイズとも、本誌はりこみのはがきに答をはっきり書いてお送りください。そのほかのはがきはみとめません。

締切　昭和三十四年四月八日

発表　正しい答と当選者のなまえは四月二十三日号に発表します。正解者多数のときはくじびきで、当選者をきめます。

賞品　フジペット・カメラ(ケース、フィルム付き。)を三百人のかたにさしあげます。





出題・手塚治虫



賞品　第三号では、このすばらしい、フジペット・カメラが三百人のかたにあたります。

富士フイルム

▲週刊少年マガジン創刊3号(昭和34年)/資料協力・五條高志・No.213

オヤジ群像

手塚治虫さん

しかるのは母親任せ

子供をしかるのは女房にまかせています。このためか、女房は朝から晩までおこっています。オヤジが始終おこっていると、本当におこるべきときに効き目がないんじゃないですか。道理がわからないのにいろいろ言ってもしかたがない。いま、長男が中学二年ですけど、これからでしょうね、オヤジが出ていってきかせなければならないのは。いまは、家に帰ると、もう子供とズッペリなんです。でも、子供も二人三人なので、その興味に合わせて平等に相手をするのはなかなかむずかしいですよ。平等といっても子供の方では[illegible]だから」という[illegible]を求める。そのへんが微妙なところです。

長男はすごい映画きちがいで、学校でもクラブ活動で八ミリをやっています。洋画、それもミュージカルなんかに熱中なんです。ボクも映画きちがいだったから、これは話が合う。ほかの話はあまりしないから、これが断絶を救う唯一の道といえますね。

小学校五年の長女はマンガに熱中していて、朝から晩まで自分でかいています。それも、キスシーンのある少女マンガばかり。ボクのマンガは読んでいるんだろうけど、あまり批評はしません。友だちの意見には反発したり、共感したりしているようですが、ボクは気が小さくて批判されたりするとかけなくなってしまうので、女房があまりしんらつな批評をしないように言いきかせているのかもしれない。面白くないと君は「まあまあだ」なんて言います。

三番目は末だ幼稚園ですが、育てるのにはまん中の子がむずかしいですね。上は長男だから、下は末っ子だからと、親が無意識に思うことがあるのでしょうか。ボク自身もそうだったのですが、まん中にはさまれると、上と下のしわ寄せが集まるような感じがありますね。そのためか、所有欲がとても強い。それに、そろそろ女としての第二次性徴があらわれてくる時期で、オヤジに対する遠慮もある。下の子のように、ボクが帰ってきても飛びついてきたりしません。

子のいい分聞こう

長男は反抗期の年ごろだと思うんだけど、言ってそんな様子はありません。でも、むしろ反抗期ぐらいになってくれた方がいい。何をいっても「ウン――」というばかりで、どうも無気力というか、シラけているというか……。最近の子はみんなそういう傾向があるようだけど、先生の教え方にも問題があるんじゃないでしょうか。しまるべきところがしまらないんですね。先生たち、いまの子供たちのことよくわからないんじゃないですか。子供マンガをかいているボクだってよくわからないんですから。

ボクはあまりどうこういわないけど「権利と義務の関係をはっきりしろ」ということだけは小さいときからいっています。親も子供のいうことをきく必要があるけど、子供もある程度、親のいうことをきかないと、親子の関係など成り立たない。子供にいうことをきかせるためにも、こちらも極力、子供のいうことをきいてやりました。親がここまでやっているんだということをわからせることは大切です。

権利と義務を明確に

オヤジの権威は子供がおとなになったときに出てくるものです。小さいときは母親が母性本能で責任もって育てるのがいいんじゃないですか。だからそのときは家庭や育児に関しては母親に権威がある。子供が社会に出て、母親の手が届かなくなったとき、父親の本当の出番がくる。社会の先輩として助言したり、相談に乗ったりするのがその役目でしょう。

でも、そのときまでに子供と心が離れていては他人になってしまう。つかず離れずが理想だけど、一般に父親は仕事があって子供と接する機会が少ないから、意識的に子供のそばについていてやる気持ちが必要なんじゃないですか。もっとも、そのときになったらボクは逃げ出すかもしれないけどね。

学校の成績はあまり問題にしないけど、やはり落第点をとるようでは困る。そうでなければとやかくいうことはないと思っています。私立で、そのまま上の学校にも行きやすいので、受験勉強に追われるということはないようですが、女はやはり勉強にはうるさいですね。「またマンガなんか読んで！」と女房はよくおこっています。ボクの顔と見くらべながらね。

父親の出番は成人してから

マンガ選択は子供に

学校でも先生方はどうもマンガには批判的で、ボクの仕事もよく思われていないみたいだけど、ボクは子供がいくらマンガをみても心配ないと思っています。よく、いいマンガ、悪いマンガといいますが、子供の目は確かなので、選択にまかせてまちがいないんです。子供の選んだものはやはりいいマンガだし、必ず何か子供のプラスになっているものなのです。

マンガは無意識のうちに字をおぼえるし、語彙（ごい）もふえ、結局それが読書好きにもつながっていくと思うんです。考え方みたいなものもかなり影響されますね。ボクも「のらくろ」など一言一句おぼえていますよ。

最近、子供のマンガは選択されて少数精鋭になってきています。以前は、よい子のためのマンガが最高権威だったわけだが、これはハナもちならなかった。そして一時、劇画ブームがあり、最近は、原始的思想というか、個性が出てきました。よい子のためのかわいいマンガと劇画とがミックスされて、ひと味違ったものになっている。いまの子は、マンガとはただ笑うものだとは思っていないし、勧善懲悪がいいとも思っていないはずです。

作家がしっかりしたものをもっているかどうか、何をいいたがっているかを鋭く求めます。作家指向というのか、マンガに〝うるさく〟なってきた。だからヘタなものはかけないし、子供にきらわれたものはどんどん落とされる。それにくらべて青年マンガの方がちょっとだらしない感じがしますね。



てつか・おさむ　大正十五年生まれ、兵庫県出身。大阪大医学部卒の医学博士。大学に籍を置きながら終戦直後からマンガを発表し、「ジャングル大帝」「リボンの騎士」「鉄腕アトム」などの長編マンガで、戦後マンガ・ブームの元祖的存在。とくに二十六年から連載の始まった「アトム」はテレビや劇場用マンガとなっても大ヒットを続け、本場アメリカでも「アストロボーイ」として評判となった。三十七年に設立された「虫プロダクション」は、アニメ映画や雑誌出版などに手を広げすぎ、四十八年に倒産したが、アトムをはじめとする手塚作品の人気は根強く、大学祭や中、高校の文化祭などで十六ミリフィルムの貸し出し申し込みが殺到している。アトムの復刻版も異例の増刷を続け、現在、再び手塚ブームだといわれる。虫プロ商事も昨年再建され、文春の漫画賞も受けた。ぶあついメガネの奥の柔和な目、話の内容からみて〈子ぼんのうオヤジ〉に間違いなさそう――。

◀掲載紙・掲載年月日不明／資料協力・五條高志・No 213

こども五十年

手塚治虫

昔のようにあこがれも抱く

手づくりの文化を与えたい



ぼくが少年時代に愛読した田河水泡さんのマンガをひろげてみる。出てくるこどもの半数は、まだ、着物の袖(そで)に[illegible](くり)背、股(もも)引に足袋、坊主頭に、学生帽といういでたちである。

西洋料理、活動、円タク、ハイカラなどというセリフがとび出す。「お山の大将」「兵隊ごっこ」「陣取り」などの遊びが登場する。

おおらかで田園的

ぼくの少年時代は、戦争が始まる前の空白だったこともあって、ほかのいなかよりは、ずっと牧歌的だった。といっても、やっぱり、土臭さというかローカルカラーがただよっていて、おおらかで、田園的だった。

駄(だ)菓子屋の店先には、一銭菓子や[illegible]、おはぎやおにぎりが、パンやチョコレートよりも優先し、こども雑誌の付録にも、[illegible]組立て模型がつく。

つまり、おしなべて、手づくり的なものが多かった。それには、どんなつまらないものにも、つくり手の、あたたかなぬくもりが、しみこんでいるような感がした。

手に入れたものは、後生大事に使った。人形なんか、すりきれて目鼻がわからなくなっても、何度も繕って、次の子が遊んでいた。

いま、マンガブームの中でマンガ家たちは人気作に追われて、劇画などは分業システムをとっている。しかし、ぼくはどうしても、とことん自分ひとりで描いてしまう。手づくりの作品をこどもに渡さなければ、わるいような気がするのだ。

「鉄腕アトム」を描き始めたのは、昭和二十五、六年ごろだった。そのころは終戦後の荒廃から、日本はやっとバラ色の未来をめざして立ち上がりはじめていた。

こどもたちだって、こと未来については、けっして悲観的な予想はしていなかったのだ。

それは、お手本のアメリカ文明などから[illegible]、追いつく夢だった。

そして、科学万能主義、合理主義へのあこがれだった。

こどもたちは英雄を待望した。正義の味方であるとともに、民主主義、合理主義の権化である必要があった。そんなときに、アトムが生まれた。

こどもたちの目は、地域社会から日本全体へ、さらに国際的に視野をひろげ始めていた。一方では規格化されたマスコミ文化が、こどもたちのまわりにおしよせていた。芸能、スポーツ、マスコミ記事、ブームの押しつけ。国際緊張のはじまりとともに、こどもたちの生活や遊びもかわった。

そして、"自然"が遠く、環境に無関心で[illegible]な、つまり[illegible]人間が、生まれようとしていたのだ。

そして現在。

こどもたちはシラケとか、ノンシラケ世代といわれるようになった。マンガ世代ともよばれる。ありがたくない形容である。

映像文化の申し子

しかし文字や[illegible]を知らず、説明が感覚的な現代っ子たちを見ていると、マンガを含めた映像文化の申し子だと、みとめざるをえない。

こどもたちは、いま、いろんな情報や文化財を次から次へと吸収し、それらの評価を、日一日、刻一刻とめまぐるしくかえている。気まぐれで刹那(せつな)的である。かつての英雄のパターンは、非英雄化し、こどもの夢は、立身出世、一攫(いっかく)千金型から、マイホーム型へかわってしまった。

なぜそうなってしまったのか。

おとなたちはおっかなびっくりで、おずおずとこどもに接している。結局、なにを考えているのかわからない。未来人、宇宙人ともいわれる現代っ子。

ところが、こういったこどもたちが、ふと昔の[illegible]読んだりしていることがある。おとなの昔話に、熱心に、目をかがやかせて聞いていることもある。

「昔に生まれればよかったのになあ」

「昔のこどもだって、しあわせだったね」

そんなことばを、ふともらすこともある。

[illegible]ような新[illegible]。そして、国際感覚を好むと好まざるとにかかわらず身につけて、日本人離れのした現代っ子たち。

あるいは、そのこどもたちの心の中に、日本人の技術への回帰願望があるのではなかろうか。日本という風土への郷愁があるのではなかろうか。

[illegible]のわれわれおとなが、あたたかい手づくりの文化を、もう一ど、現代っ子たちにもたっぷり手渡してやりたいものである。

(マンガ家)

【注】手塚氏は大正十五年十一月三日生まれです。



上「のらくろ」下「鉄腕アトム」=いずれもフジテレビのマンガ映画から

▲昭和50年5月5日・掲載紙不明/資料協力・五條高志・No.213

手塚治虫氏の「ジャンピング」に大賞

世界アニメーション祭

【ベオグラード十五日=共同】ユーゴスラビアのザグレブで開かれていた世界アニメーション祭で十五日、漫画家、手塚治虫氏の参加作品「ジャンピング」がグランプリを獲得した。

昭和59年6月16日・サンケイ新聞(夕刊)▶

インターナショナルな感動





手塚治虫氏

ぼくは能楽「黒塚」の鬼女の述懐が大好きだし、「船弁慶」の静から知盛の霊への緩急のショックがたまらないし、太郎冠者、次郎冠者のコメディー・リリーフの所作に共感するし「越天楽今様」に悠久のロマンを感じるし、「道成寺」の絢爛さにため息をつく。要するに古典芸能はなんでもご贔屓なのである。

仕事の上では未来社会や宇宙規模のアイデアをひねくりまわしていて、古典ものに目をうつすことは、カタルシスにもなるし、さらに古典の中にふっと現代的、未来的な趣向を見出して改めて驚いたりするのである。

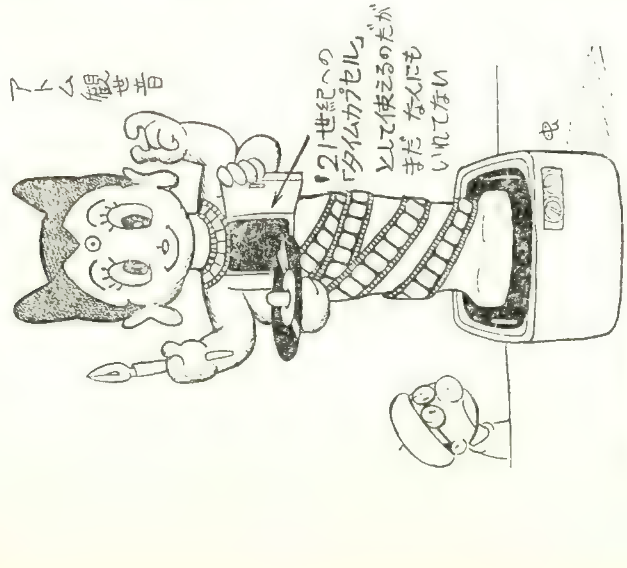
いいかえれば古典芸能の中には、現代、未来に通じるアイデアが無限に含まれているかんじで、ぼくは、しばしばそれらのアイデアをうつしかえて使っているくらいである。

近頃、能狂言や雅楽や歌舞伎に若いファンが広がっているのは大変結構なことだと思う。若い人達はインターナショナルな感覚を持っているから、これらの古典芸能が、むしろ外国人に驚嘆をもって、あるいは最も先端的な芸術として評価されていることと、どこかで通じているのかもしれない。

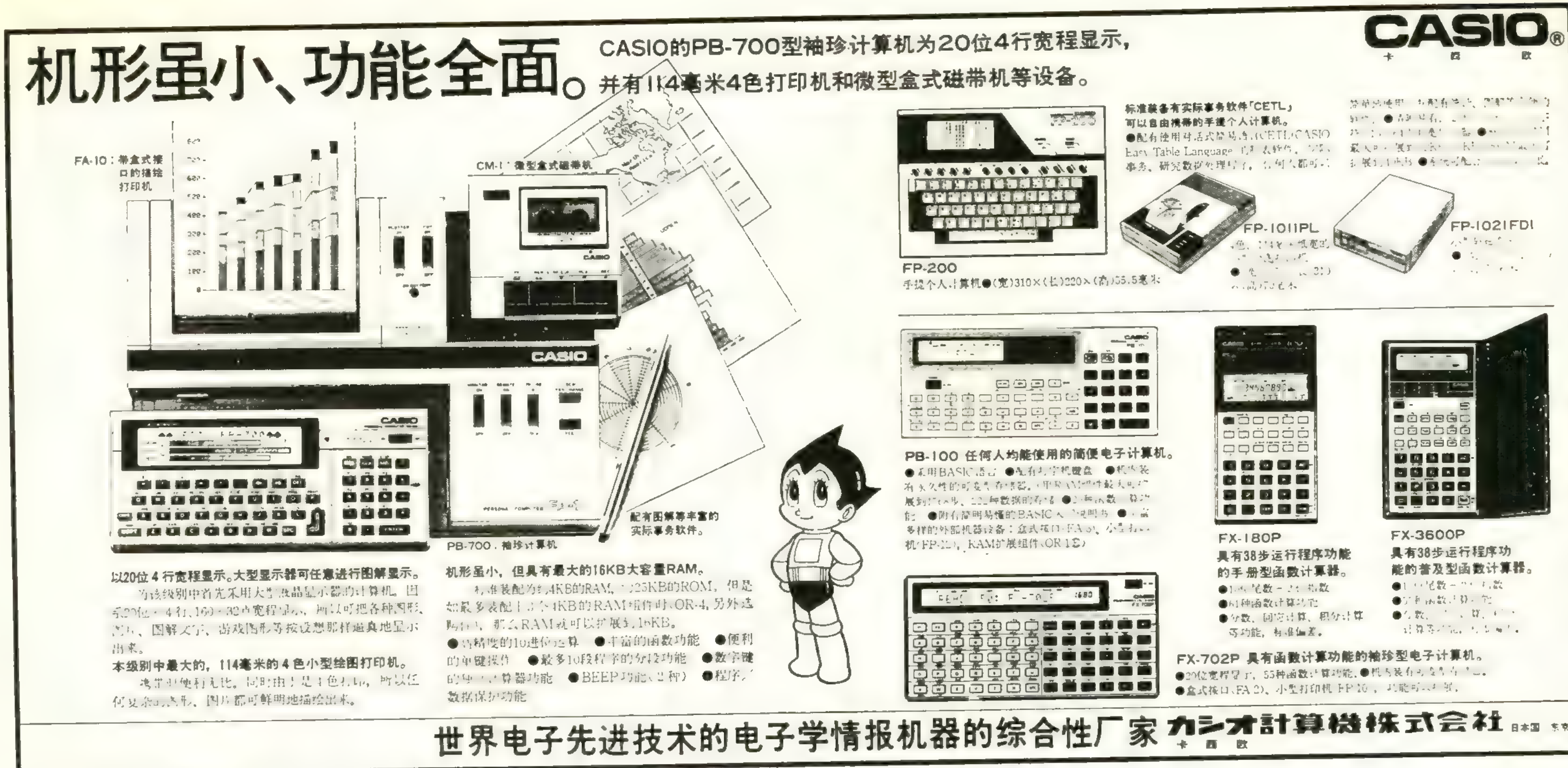
こんどNHKホールでは特設花道を二つもつくって、「道成寺」では白拍子花子・桜子の二人立ちの舞踊として、又「野崎村」ではお染、久松が舟と駕籠で引っ込む華麗な舞台づくりをするという、それも一回の公演のためにである。こんな贅沢な趣向はこの鑑賞会ならではだし、狂言や舞踊が同時に見られるということはまことに素晴らしい。

こういうプログラムはぜひ外国のお客様に沢山来て頂きたい。演しものも、お客も、色とりどりでインターナショナルというのが、いかにも、今様に申せばナウいのである。

▲第10回NHK古典芸能鑑賞会のチラシより/資料協力・清水　誠・No.490



◀掲載紙・掲載年月日不明
資料協力・五條高志・No213



▲上海(中華人民共和国)で発行されている新聞に載った、カシオ計算機の広告です。テレビ放送における人気からか、ペットキャラクターにアトムが使われています。
資料協力/森田憲司



▲長崎県　草野　誠


▶大津市　前田昭仁

お便りコーナー

●かなり久し振りにお手紙します。中学生の時にこの手塚ＦＣ京都に入会した僕も今年、年男になります。本棚の中にかなりの厚さを持った〝ヒョウタンツギタイムス〟を見て、少し感傷的になってしまいました。

それと並行して、長いこと、虫氏の漫画を収録していた講談社版全集も、ついに完結するようですが、収録されないままのものも多いようですね。そこで、作品の収録されない理由を考えてみました。

「ピノキオ」と「バンビ」＋「キングコング」は著作権の問題でしょう。(「ピノキオ」と「バンビ」はもったいないなぁ～)

昭和22～23年の不二書房などの未収録のもの、これは、作品の質自体に作者自身が納得してないのかな？　ただし「妖怪探偵団」が復刻されないのは良くわかる。差別用語なんか、ポンポン出てくるもんね。

「流星王子」、架空の島に実在の人物が出てくるからかな。

理由を知っている方がいたら教えてください。僕として、是非虫ＦＣ京都で復刻して欲しい作品は「森の四剣士」「ドローン城物語」「13の秘密」「快傑シラノ」「冒険ルビ」「あけぼのさん」「そよ風さん」「ひまわりさん」「やじうまマーチ」「花とあらくれ」「ふしぎなメルモ」などなどです。

こういうことはＦＣ京都でしかできないと思うので是非是非お願いします。

また、省略・改変部分も、オリジナルとかなり違うところは復刻していただけないでしょうか？

先頃、小規模な会で復刻された「アトム今昔」の省略部分を見て、また新たに感動しました。

「スーパー太平記」なんか、かなり省略されてるようで是非オリジナルを知りたいです。

それでは、スタッフの皆さん、今後ますますがんばってください。　(東京都・近藤和行・No.36)

＊「森の四剣士」の復刻は、ちょっとムリみたいです。なにせ、Ｂ６版ハードカバーの復刻は「流線型事件」の大赤字でコリていますので……。手塚氏の幼年マンガは、そのうちタイムス誌上で復刻するかもしれません。それにしても、「ピノキオ」「バンビ」はぜひどこかで復刻してほしいものです。でも版権が………、ディズニープロの小心さには驚くばかりです。(M)



◀長崎県　草野　誠

●長いあいだごぶさたしていましたが、会長さんほかみなさんお元気ですか。「黄金のトランク」とてもすばらしいですね。私が生まれる前にこんな本があったなんて、手塚先生はやっぱりすごいですね。前に送ってもらったアトムの本もよかったけれど、みんながどれだけ手塚先生の本をだいじにしているのか、よくわかるような気がします。でも私はまだ一度もあっていないのがとてもざんねんです。会員になって６年ぐらいになるのに、

一度だけでもいいからこの目で見てみたい。こんな思いの人はいっぱいいるでしょうけどね。
ではまた、さようなら。
(愛知県・榊原昌代・No.138)



▲東京都　関口良成

●こんにちは、お久しぶりです。ＦＣの皆様お元気ですか。ヒョウタンツギタイムスも20号をむかえ、ますます充実してきたよう。入会したころ私はまだ花の独身貴族、いまじゃ２才の娘をもつおばさん!! 早いものです。あのころは自由気ままに本屋をうろつき、新しい本(マンガ・小説等ね)をさがし、祇園会館に一日こもり、バイトをして金をためて、自分の好きな服を買う……、手塚作品に対する考えも今とは少々ちがったのじゃないでしょうか？ 学生のころは手塚ファンだけでなく、いろんなマンガ家のファンの人としゃべるチャンスが多かったし、つきあいもひろかったし…もうこれはグチですねェ。もう一度学生にもどりたい。もっていないもの、もう失なってしまったものをもとめるのは人のつねです……。
さてタイムス20号たのしく読ませてもらいました。特にお便りコーナー好きです。他の人の意見、思っていることが多少なりともわかりますからね。自分ではロクに手紙も出しもせず、人の文章を読んでフンフンなるほどと思ってるだけですが。
「漫画教室」興味深く読みました。今でも十分通用しますね(あたりまえかな)。その昔の子供たちの投稿マンガ、やっぱり絵柄にも年代を感じます。アイデアも、いかにも古きよき時代の子供らしい感じ方。私はそんな時代を知らない世代で、ものたらないように思いますが、それなりにおもしろかったですね。
森下ひろみさんの「ＲＯＢＯＴ」全然わからない。私の理解を超えている。感覚がガロ的というのかなァ？ '62生ということは22才ころか!? 私と２才ちがうだけでこれだけちがうのかなァ。他の作品を知らないので感想といってもはっきりといえませんが、この作品に関してはおもしろくなかった。それでは今日はこのへんで。次のタイムス、楽しみにまってます。
今だ幼児性がぬけきらない不良妻、及び不良母より　(大津市・塩田三千世・No.17)

●いつも会報を楽しみにしております。先般は、「漫画教室」(漫少掲載)をずいぶん久し振りに見ることができ、感激いたしました。再び見る機会があろうとは思いませんでした。今後共よろしくお願いいたします。　(千葉県・石井幸八)



▲大阪市　三明正仁

探求本コーナー

◆「虫の標本箱」②③、「日本名作漫画館」第三部、「ぼくの孫悟空」(秋田書店)全、「バテイ島の秘密」(富士見出版社)、ヒョウタンツギタイムス①～④・⑧を譲ってください。ほかに絶版となった手塚作品をなんでも集めています。以下の本と交換してください。

手塚作品では、「炎」③、「X」④、「0マン」(集英社)全7巻、「アポロの歌」(虫プロ)全2巻、「ロストワールド」「地底国の怪人・魔法屋敷」(桃源社)、「手塚漫画のはじまり」などがあります。手塚作品以外では、「ユカをよぶ海」(曙出版)全6巻、「石森章太郎選集」(虫プロ)17冊、など、石森、ちば、藤子、横山、白土、寺田などの単行本、雑誌、付録も多数あります。(リストを送ります) 御連絡お待ちしています。

〒440 豊橋市下五井町南屋敷12　笹野和美

◆譲ります。
COM1号～全57冊(1967年1月号～1971年12月号)揃いです。(美品) 5年前に14万で古本市で購入したものですが、10万円で譲ります。ご連絡はハガキまたはデンワで。おまけをつけて宅急便でお送りします。
〒183 東京都府中市分梅町1-30-5　府中コーポラス205　長谷川清美　TEL.0423-68-6687 (電話は日・祝、または夜に)

◆次の本を探しています。
ヒョウタンツギタイムス創刊号、鉄腕アトムクラブ創刊号、「101匹わんちゃん大行進」(講談社・さし絵のみ)、「少年」昭和35年9～12月号、「少年画報」昭和33年3・5～7・10・11月号、「少年ブック」昭和38年11月号・昭和40年2～4・6～9・11・12月号、ふろくの「太平洋Xポイント」、「赤胴鈴之助」昭和29年12月、「太平洋魔城」、「少年ジェット」、「七色仮面」その他。そちらで必要な本もお知らせください。連絡お待ちしています。

〒427-01 静岡県島田市1132　五條高志

◆「冒険王」昭和30年1・2・4・6月号(ロストワールド掲載号) をお譲りください。FC山形で発行しております会誌「むしのなかま」で完全復刻を目指しておりますが、前記の4冊がありません。御連絡お待ちしています。
〒992-03 山形県東置賜郡高畠町二井宿1　手塚治虫ファンクラブ山形・事務局　星　彰一


▶大津市　塩田三千代

◆手塚治虫初期漫画館(全22巻・別巻1)発行：名著刊行会、定価75,000を適当な価格で譲ります。ご希望の方があれば往復ハガキに希望の価格を記入の上、次の住所まで連絡ください。

〒589 南河内郡狭山町西山台2-9-12　水谷英二

◆お譲りください。
手塚治虫初期漫画館④⑧⑨⑱㉑㉒、何冊でも可。
〒859-48 北松浦郡田平町生向　草野　誠

◆以前パルコ出版から出た「リトル・ニモ」ウインザー・マッケイ作を探しています。適価か交換で。交換本は虫コミックスの横山・手塚・藤子・ちば作品等。こちらが多数でもちろんOK。適価の場合、希望金額を書いて連絡を。

〒186 東京都国立市西2-7-24 関口荘　近藤和行

◆講談社手塚治虫漫画全集、第1回配本より全巻きれいに保存されている方、定価にてお譲りください。連絡は、往復ハガキで。

〒190 東京都立川市高松町3-16-1　荻原昌之

編集部より

★皆様のお便り、毎号ありがたく思います。いつもタイムスのために御協力くださり、カンパ、他肉体労働してくださった方々には、お礼の申しようがありません。スタッフ一同、このスペースいっぱい感謝致しております。今後もあいかわりませず、よろしくたのみます。また相談事などいろいろありましたらＦＣ編集部まで。
なお、当ＦＣでは、いつでも会員募集しておりますので、返信用60円切手同封の上、入会案内書希望と記入してお申し込みください。　（Ｉ）
★ＦＣ京都では、手紙の返信、本の発送などを、手続上一週間に一度の間隔で行なっています。みなさんのお手元に届くまで二週間前後かかります。もし長期間待っても何も届かない場合は、郵便事故の可能性もありますので、ＦＣまで電話で連絡してくださるようお願いします。

★FC京都よりご注意

＊ＦＣ発行物注文や、意見希望の際は、必ず会員番号を記入すること!!
＊中には住所だけで名前の書いてない人!!　名前だけの人!!　注文品を明記せず、お金だけ送ってくる人!!　それから古いタイムスの在庫を見て注文する人!!　その他、郵便の都合でよく事故があります。以上の理由で事故が起こった場合は、当ＦＣは一切責任をもちません。気をつけてください。尚、注文品目は必ず明記してください。
＊現在ＦＣ京都では、新入会員及び会費更新時に特別特製の小冊子をプレゼントしております。毎年１～２冊は作ります。またカンパ、他、協力してくださった方にもさしあげてますのでよろしく!!
＊ＦＣ京都と東京のＦＣは全く別のものですので混同されないようご注意ください。

★９月23日(日)・24日(月)の両日、仙台戦災復興記念会館（研修室）で、手塚治虫ＦＣ山形の主催で『どろろ』全26話の上映会が行なわれます。23日が第１話～第14話、24日が第15話～第26話上映となっています。入場料は600円で、定員が70名だそうです。時間など詳細は未定です。詳しくお知りになりたい方は、〒992-03 山形県東置賜郡高畠町二井宿１　TEL.02385(2)3852 手塚ＦＣ山形・星　彰一までお問合せください。

★手塚治虫の数あるファンクラブの中で、東京以北の唯一のＦＣ、手塚ＦＣ山形では、お膝元の東北在住の会員が少なく（なんと４人）、あとはみなその他の地域の会員だそうで、代表の星氏も頭を痛めているようす。会誌「むしのなかま」も年４回毎回ふろくつきで、発行スケジュールも比較的スムーズで（あー耳がいたい!!㊢）、ガンバッているようです。今回は特に、東京以北の会員を募集しているそうです。（もちろん他の地域の人も拒みません。）会費は１年（会誌４冊）で3,000円、半年（会誌２冊）で1,500円です。入会希望の方は、60円切手同封の上、〒992-03 山形県東置賜郡高畠町二井宿１　手塚治虫ファンクラブ山形事務局　星彰一まで連絡してください。到着次第「入会案内」を発送するそうです。

★タイムスNo.20でお知らせいたしました大阪でのファン大会は、都合により中止になりました。

★ＦＣ宛に、カンパ、資料などが寄せられています。現在のところ、あいさつ文も書けませんが、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。

手塚FC＊京都会員募集中!!

■入会金　500円
■会　費　１年5,000円
■入会希望者は「会員登録用紙」に必要事項記入のうえ、ＦＣ事務局まで、会費をそえてお送りください。到着次第、会員証を発行します。
■会費は現金書留か、
郵便振替口座No.京都3-16085まで。
■新入会の方には、当ＦＣオリジナル復刻小冊子を、もれなくお送り致しております。

★いつも読者の方から〝すくらっぷ・るーむ〟用の切りヌキなどの資料を送っていただいて、編集部では大変助かっております。ありがとうございます。ただ、資料を送ってくださるのはよろしいのですが、できるだけ掲載誌・紙名や掲載年月日を併記してくだされぱありがたいのですが……。勝手なお願いかも知れませんが、よろしくお願いします。

★毎度のことではありますが、タイムス用の原稿を大募集しております。お便り、カット、すくらっぷ・るーむ用の切りヌキ、漫画論など、なんでも結構です。どんどん送ってちょーだい!

編集後記

◆ひさびさのタイムスですね……。ごめんなさい。毎度毎度遅れてしまって………。

◆今年から来年にかけて、手塚先生の40周年記念関係のイベントなどが、次々と行なわれると思います。小学館の漫画賞はとるは、『ジャンピング』はグランプリをとるは、手塚全集は完結するは、なんだか今年に入ってから、手塚先生の周囲にはおめでたいことばかり。あとの反動がオソロシかったりして……。

◆今回の40周年記念ページに原稿、色紙など寄せていただいた先生方、お忙しい中、どうもありがとうございました。

◆会員のみなさん、もっともっと原稿やお便りをＦＣに送ってください。お便りコーナーなんて、今回２ページしかないんですよ、２ページしか……。

◆全集も完結したことですし、今後のタイムスの復刻は、全集の落ち穂ひろいをより明確に打ち出してやっていこうと思っています。さしあたって次号は幼年マンガを中心に特集を兼ねてやろうかな。あっと、『漫画教室』の復刻も次号で終了予定です。お楽しみに (M)

手塚治虫FC*京都 在庫リスト

	頒価	送料
★火星から来た男	￥800	￥200
★ピピちゃん	￥800	￥200
★流線型事件	￥2,000	￥250
★ワンダーくん	￥1,000	￥250
★風の進がんばる	￥1,000	￥250
★化石人間	￥800	￥200
★黄金のトランク(完全版)	￥1,000	￥250
★ヒョウタンツギタイムス⑤・⑥・⑫・⑭・⑮・⑯・⑰・⑱・⑲・⑳	￥800	￥200

■お求めの方は、現金書留または定額小為替・郵便振替で、頒価＋送料分をお送りください。
郵便振替口座・京都3-16085

■タイムス20号までとはリストが変更になっていますのでご注意意ください。

■同じ本を２冊お求めの方の送料は50円増し、３冊以上は100円増しとなります。

■送料の違う本２冊をお求めの方は、送料300円、３冊以上は350円となります。

手塚治虫FC*京都発行物取扱い店

《京都》 ★ブックストアー談(四条河原町西入ル)

《大阪》 ★ブックス５駸々堂(梅田・阪急ファイブ)
★アニメポリス・ペロ(梅新・東映会館)

《名古屋》★永野書店(天白区)
★鎌倉文庫(名駅地下街)
★千種正文館ターミナル店(千種区)

《横浜》 ★アニメショップ・アニメイト(中区元町)

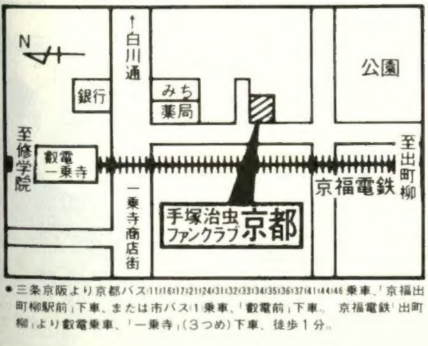
《東京》 ★高岡書店(神田)
★書泉グランデ(神田)
★現代マンガ図書館(早稲田)

《北海道》★日之出ビル リーブルなにわ(札幌市)

《長野》 ★有林堂(松本市)

《福岡》 ★金文堂地下街店(博多)
★金文堂旭ビル店(博多)

手塚FC京都所在地



●三条京阪より京都バス11·16·17·21·24·31·32·33·34·35·36·37·41·44·46乗車、「京福出町柳駅前」下車、または市バス1乗車、「叡電前」下車。京福電鉄「出町柳」より叡電乗車、「一乗寺」(３つめ)下車、徒歩１分。

ヒョウタンツギタイムス第21号

発　　行／手塚治虫ファンクラブ*京都
京都市左京区一乗寺里ノ前町24　石川方　〒606
☎075-721-5355　郵便振替口座・京都3-16085
編 集 人／真野慎一
発 行 人／石川栄基
印 刷 所／㈱日産印刷工業
協　　力／北村敏之
制作協力／㈱手塚プロダクション
マックスグラフ㈱・JEEP

昭和59年７月25日発行